

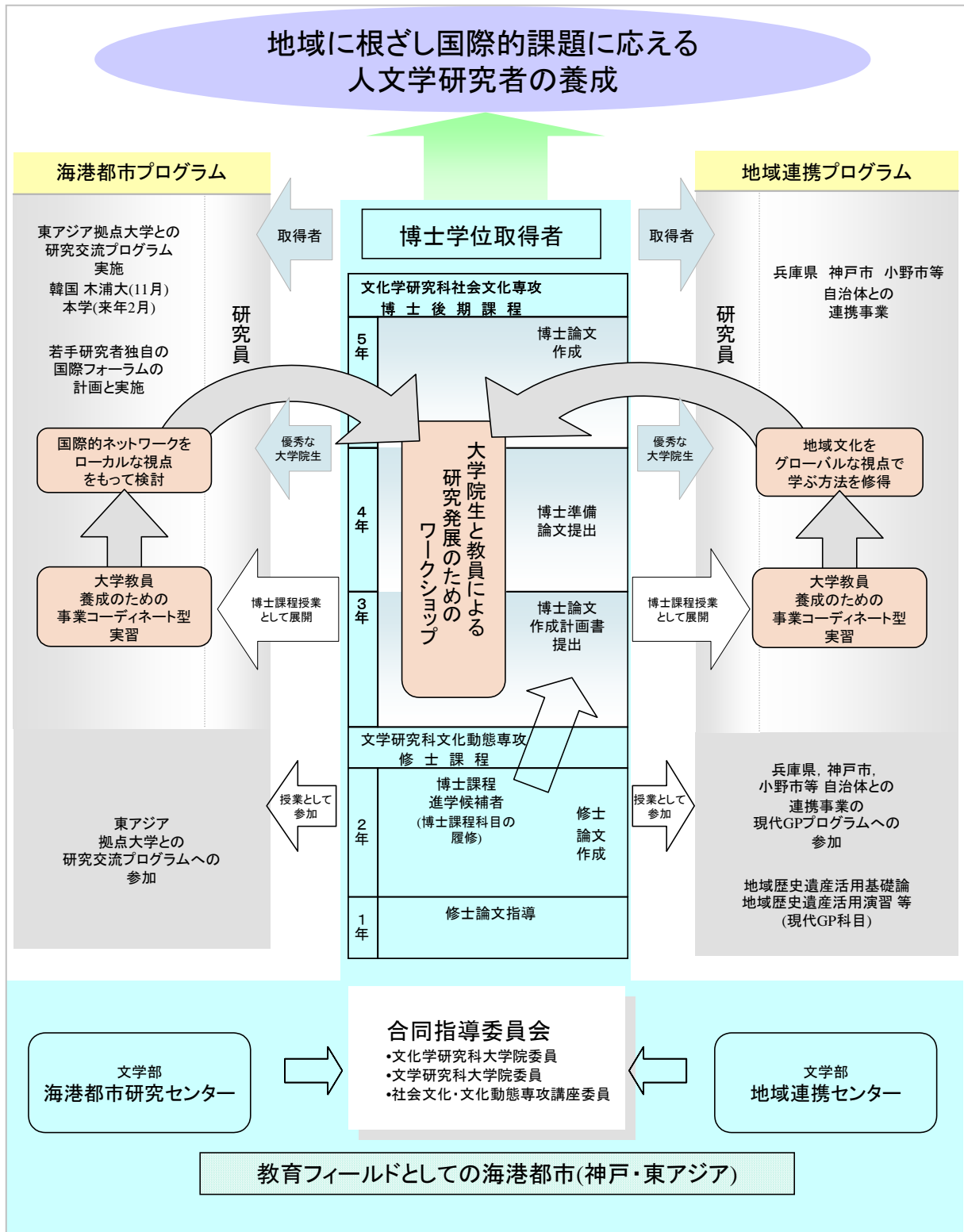
平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	神戸大学	整理番号	a021
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	国際交流と地域連携を結合した人文学教育 (海港都市を教育フィールドとして)		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 史学・社会学・人文地理学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (日本史・東洋史・西洋史・社会学・人文地理学)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 <small>([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)</small>	(主たる研究科・専攻名) 文化科学研究科 社会文化専攻〔博士後期課程〕	研究科長(取組代表者)の氏名 松嶋 隆二	
	(その他関連する研究科・専攻名) 文学研究科 文化動態専攻〔修士課程〕		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>神戸大学は、教育憲章において「人間性」、「創造性」、「国際性」、「専門性」を培うことを宣言している。とりわけ国際港湾都市神戸に位置する大学として、教育研究の国際性を重視し、阪神淡路大震災と復興過程で出現した地域課題解決のための研究を全学として組織的に取り組んでいる。平成16年度現代GP「地域歴史遺産の活用を図る地域リーダーの養成」事業では、重点地域である兵庫県小野市・朝来市と包括的協定をむすぶなど積極的支援を行っており、結果、本学の現代GPは、文部科学省のフォーラムで高い評価を受けている。「国際性」と「地域性」についての教育研究活動がそれぞれ実績を上げる中で、本学が次に行うことは、今日喫緊の課題となっている国際的課題とローカルな課題が結合した問題の解決、いわゆるグローバルな問題を解決する教育研究にあり、その中で若手研究者養成が重要な課題となっている。本事業では、この課題で成果をあげつつある文化科学研究科の大学院教育を強化し、本学の大学院教育の戦略的拠点形成事業として位置づける。</p>			

機 関 名	神戸大学	整理番号	a021
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>文化学研究科社会文化専攻は、文化の歴史的あり方と社会的あり方を、グローバル化する社会システムの急激な変動とその地域における現れの中から解明し、教授するための教育体制を構築している。この教育を補完し、正規の授業にその成果を還元するために、大震災後に生まれた文学部地域連携センター(平成14年度設置)の地域文化復興支援事業に大学院生を参加させ、さらに現代GP事業により規模を拡大し、フィールドワークと教室授業との連携を図る試みを続けている。また研究及び大学院教育の国際連携を図るため、東アジアの学術交流協定校と提携して海港都市文化の共同研究と若手研究者育成事業をいままで以上に推進すべく、文学部と文化学研究科による海港都市研究センターを設置した(平成17年6月)。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>今日、文化面においても、国際的問題とローカルな問題が密接に関連しており、その同時解決の方策が強く求められている。広い視野からグローバルな課題をとらえ、これに実践的に対応しうる若手研究者養成が不可欠となっている。人文学の細分化を克服し、こうした社会的要請に応えるため、9-(2)に記述した両センターを利用した若手研究者育成事業を発展させ、5年一貫のコースワークを文化学研究科文化動態専攻(修士課程)・文化学研究科社会文化専攻(博士後期課程)に設定し、大学院教育を整備強化する。さらに両センターの教育事業を有機的に結合する大学院教育の実施主体として両研究科をまたいだ合同指導委員会を設置、教員大学院生間のワークショップをとおしてカリキュラムの改善をはかり、さらに新しい人文系の大学院における若手研究者養成のモデルを構築する。その特長は以下のとおりである。</p> <p>教育フィールドの設定の独創性: 国際的ネットワークのなかでグローバルな文化構造に組み込まれながら、同時に一つの地域でもあり続けてきた内外の海港都市とその周辺地域の独特のあり方を大学院教育に利用する。このような海港都市域を教育フィールドとして設定し、そこでの両センターの事業を利用することで、グローバルな文化的諸課題を具体的に理解させる実践的な教育を可能とする。</p> <p>実践的教育方法の独創性: 両センターで実施中の事業の一部を、大学院生に実施させる事業コーディネート型の実習として単位化し、グローバルな課題をとおして、研究者、大学教員として必要な能力を養成する。地域連携プログラムでは、地域住民にグローバルな視点で地域文化を理解させる住民啓発事業のサブリーダーの役割を大学院生にあたえ、大学院生の研究課題開発能力と、実践的教育能力を向上させる。海港都市プログラムでは、海外提携校との研究交流プログラムの中で若手研究者フォーラムの企画運営を担わせ、大学院生の研究者組織能力、国際的に通用する語学能力の実践的強化をはかる。また大学院生がこれらの実践的カリキュラムをとおして獲得した自己の研究課題を共有し、深める場として、大学院生と教員によるワークショップを持続的に行う。</p>			

6. 履修プロセスの概念図



機 関 名	神戸大学	整理番号	a021
<p data-bbox="165 199 588 230">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 295 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 490 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 535 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 660">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1428 855">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 918 633 949">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="172 967 1428 1285" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="172 967 1428 1144">・神戸大学の立地が港湾都市である特性を活かして、一方で地域文化、他方で国際的なネットワークに注目し、それを結び付けた履修プロセスを大学院の研究者養成プログラムとして構想した点は、高く評価できる。また、文学部地域連携センターや港湾都市研究センターなどとの連携の下で実現しようとしている点も評価できる。 <li data-bbox="172 1160 1428 1285">・ただし、本教育プログラムのような複数専攻を組み合わせた壮大な構想を持ったプログラムについては、FD（教育内容・方法等の組織的な研究・研修）に独自の取組が必要であることから、更なる具体的検討が望まれる。 			